



「学芸会」 児童と教師と共に創り上げる喜びを！

小学校の「学芸会」というのは、学級経営（学級づくり）において、とても大切な教育的な活動であると思います。学芸会は、児童の自主性や主体性、互いに認め合う態度の育成など、普段の授業だけでは得られない子どもの成長を目指して行っています。

子どもたちは、担任とともに数えきれないほどの努力をして、やっと今日の本番を迎えました。集団で一つのことに取り組む楽しさや一体感を感じつつ、この練習の過程でこそ、子どもたちの真の成長が見られたはずです。今日は、これまでの練習の成果を発揮して、きっと期待通りの演技・合唱を披露してくれると思います。「子どもたち一人一人の良さを発揮できる学芸会」、「みんなで創り上げる大切さを実感できる学芸会」、そして、何よりも“一人一人が主役”をテーマにした学芸会で、子どもたちの最高の演技をご覧ください。



学芸会 ・ 児童に表現的、創造的な集団活動の楽しさを体験させるとともに、日頃の学習の成果を相互に交流させることを目的に、通常は全校的な規模で、演劇や合唱などを主とする特別なプログラムを編成し、学年や学級単位にその出来栄を競い合う総合的な教育活動。明治時代以来、「運動会」と並ぶ代表的な学校行事とされ、学習指導要領の上でも文化的行事に位置付けられている。

小学校の学芸会は、古くは、保護者や地域の人々に学校教育の実情を知ってもらうことも一つのねらいで、「学業奨励会」「教科練習会」とも言われ、そのために農閑期などを選んで計画されることが多かった。最近では、次第に校内的な行事の性格を強め、「卒業生を送る会」などの一環として実施する学校が増えつつあります。出演者も、一部少数の児童に限る傾向から、全員が何らかの役割を分担し、参加できるようなものへと変化してきている。 「日本大百科全書」（ニッポニカ）

詩人の山崎佳代子さんが、「人はなぜ声を持っているのか。声は人と人の魂を結びつけるから…。声を出すときは、みんなに届くように出し、声を聞くときは、心を込めて聞く。この二つが欠けると社会はほころびる」と言われています。子どもたちには、言葉を人に届けるために練習を重ねてきたことを心に刻み、「学芸会」という大きな山を学級の仲間とともに、乗り越える充実感や達成感を感じてほしいと思います。

※ 保護者の皆様には、衣装や小道具の準備などご協力いただき、本当にありがとうございました。